

温故創新 Vol.2

豊中らしさを創る

編集・発行／豊中から日本を動かす会

<http://matsuoka-akimichi.net>

office@matsuoka-akimichi.net

【温故創新】温故知新の進化形で造語。

去年、豊中市は七十歳の誕生日を迎えましたが、三十二歳の弟がいるってご存知ですか？兄弟都市宣言をしたのは、沖縄市。市役所でシーサーを目にするのは、こうしたご縁によるものです。

平成の大合併により、全国で新しい自治体が誕生しました。この点からすると、豊中市は高齢都市。もちろん経験に裏打ちされた行政が実施されていますが、直面している社会の変化には、経験が邪魔をして柔軟に対応できないかもしれませぬ。これからの街づくりには、若さとともに新しい発想が必要なのではないでしようか。

記憶に新しい昨夏の大阪北部豪雨災害。豊中市内の床上浸水は九十八戸、床上浸水は二百二十四戸に上りました。これまでの街づくりは「いかに早く排水するか」という点で、行われてきました。しかし、近年増加している短時間の豪雨になると、排水の許容量を超えてしまうので、浸水してしまいます。

これからは「いかにゆっくり排水するか」が大切ですが、これまでの「造る」経験では、地下に雨水を貯めるプールを造ろうとします。「よく考えよう、お金は大事だよ」とテレビで言っていたとおり。私の考える工夫については、裏面の『とよなか創政記』をご覧ください。

松岡あきみち(26)と さあ、行こか!

低くて当たり前化しつつある投票率

19万人に動いて欲しい



組織票で当選する政治家

政党や各種団体が集める組織票。息子などに引き継がれて世襲に。

若者の政治離れ
関心がないわけじゃない!
託せる人がいないだけ!!

若年候補者の皆無
現職の豊中市議の
平均年齢は 57 歳

この 19 万人 (若者や
利害関係のない人々)
の多くが選挙に足を運ぶ
ことで、クリーンな
(一部に偏らない) 政治
が実現できます。

人が変わっても、組織に占有された議会では何も変わりません。組織が悪いわけではありませんが、19 万人が動かないせいで生じる高濃度組織票問題。

組織の意向が強く社会に反映されてしまい、私たちの政治が遠く感じてしまいます。19 万人が動けば、豊中は活性化します。一緒に街づくりをはじめましょう。



若い視点で新しい豊中市政を創造します。

豊中市も世代交代の時期を迎えています。半世紀後の社会へ繋ぐことができる次世代に託してください。松岡あきみちは、「温故創新」を合言葉に、この街のよいところを守り、将来に活かしていきます。そして、社会の変化に合わせて新しいものを創っていきます。

松岡あきみちとともに少しずつ若者が動き出しました。そして親世代をはじめ、各世代が利害関係のない若者に期待をよせてくれています。松岡あきみちの詳細は、ホームページをご覧ください。(アドレスは <http://matsuoka-akimichi.net>)

これまで、社会のことに関心がなかった方、関心があっても行動されなかった方、そろそろ一緒に動きませんか。

松岡あきみち (26才) 豊中市出身

- ・ しんでん幼稚園→南丘小学校→第九中学校→北野高校→同志社大学法学部政治学科。小、中、高校で生徒会長、豊中市中学生シンポジウム実行委員長を務める。
- ・ 池田市長、北摂の国会議員、地方議員のもとで政治の現場を学んだ後、箕面市公共下水道事業運営審議会委員を務める。近隣の市政について学び、条例改正にも携わる。
- ・ JAバンク大阪の職員として地域経済、消費生活について学ぶ。休日は、NPO活動の取り組みや豊中ラグビースクールコーチとして過ごす。18 年末に退職して、政治の道を志す。



とよなか創政記

「環境の変化に対応したまちづくり」

松岡あきみち

私が子どもだった頃、都会の真ん中でビルに囲まれた一角に、菜の花畑があるのを目にして、「こんなところを畑にしなくてもええやん、もっと有効活用しいや」と思ったことがあります。地主の意固地か、それとも税金対策か、都会に点在する農地の存在理由について考えてみても、決して肯定的に考えられることはありませんでした。

数年前、マンションの下水管が破裂し、悪臭で生活できなくなった経験があります。それがきっかけで、縁の下で生活を支えている下水道に関心を持った私は、箕面市公共下水道事業運営審議会の委員になり、農地の知られざる役割について再考させられました。

高度経済成長の下で都市化が進行し、道路は舗装され、環境問題がクローズアップされるようになると、水質汚濁を防ぐため下水道が整備されました。こうした中、「降った雨をいかに早く排水するか」という目的で、まちづくりは進められてきました。

しかし、近年は地球の温暖化にともなうか、熱帯地方のスコールのような降雨（ゲリラ豪雨、50mm/h以上）によって、排水許容量を超えてしまい、道路が冠水することは珍しくなくなりました。豊中市も大きな被害をうけた昨夏の豪雨は記憶に新しいと思いますが、これまで全国ではマンホールが飛び、けが人が出たという報告もあります。排水至上主義のまちづく

りが、環境の変化にあわなくなったと言っているではないでしょうか。

まちづくりにおける排水問題について、地下に大きなプールを造り、そこにいったん雨水を貯留して徐々に排水するという解決策が、審議会において行政から提案されました。しかし、これには億単位の費用を要するのです。一方、農業従事者から提案されたのが、例の「菜の花畑」でした。農地は雨水を蓄えてゆっくり排水する機能を持ち、まちづくりの一端を担っていることに私は気づいていませんでした。

菜の花畑は、億単位の価値がある地下プールの大役を担っているのであり、農地を大切にすることがお金をかけない排水問題の解決策だったのです。それに気づかないまま、気づいている人がいても大きな関心をもたないまま、田園地帯を郊外型の大規模商業施設にしてしまいました。

公園やグラウンドも同じです。アスファルトに覆われていない地表をどれだけ確保するかが大切です。新しく造成する公園は道路より一段低いところに設置し、新しく敷設する道路には透水性のアスファルトを採用することが、これからのまちづくりではないでしょうか。

こうしたところにお金をかけることは、

将来に引き継ぐ財産となるので、認めていくべきでしょう。

現在、農地・公園などは都市部における排水機能としての役割を果たしており、まちづくりを考えるうえで無視することはできません。また、財政難の現状を鑑みると、廉価な費用で排水問題を是正できるのであれば、これを利用しないわけにはいきません。一見、無駄に見えてしまう生産高の小さい農地や、入場料をとらない公園も、経済的価値を見直されるべきはないでしょうか。

さあ、みなさん。気づいているのに、気づかないふりするわけにもいかなないので、そろそろ動きましょうか。

みなさんのご意見ご感想をお聞かせください。

松岡あきみち後援会事務所
06-7178-7785
office@matsuoka-akimichi.net



(母校の豊中九中で、中学三年生に講演)

◇事務所ボランティアスタッフ大募集◇

「温故創新」の配布や、発送作業などをお手伝いいただけませんか？配布はご近所の数件でも数十件でも結構です。無理なく、気持ちよく、可能な範囲で応援をお願いいたします。

◇松岡あきみちの熱い思いを聞いていただける方、お声かけください◇

松岡あきみちがお伺いします、ご連絡ください。松岡あきみち後援会事務所:06-7178-7785